

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
	1	生産対策	
事業名	生産組織活動助成事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	地場野菜等の地域内供給を促進し、消費者との交流を通じ、地域の活性化を図る団体の組織強化を促進する。		
事業の内容	地場野菜等の地域内供給を促進し、消費者との交流を通じ、地域の活性化を図る団体の組織強化を促進するため、生産組織が実施する新商品の開発・研究等の会議開催等の活動に対して定額補助する事業。		
事業の実績・取組状況	生産組織に対して、539千円の助成を行った。 花野果農産加工グループ：40千円、番嶽ふれあい市場出荷組合：160千円、JA有川朝市研究会：80千円、JA上五島農産加工部：40千円、JA女性部有川班：120千円、上五島農山村活性化協議会：99千円		
成果（できたこと）	生産組織の助成を行ったことにより、地場野菜等の生産拡大と地域内供給の促進を図ることができた。また、消費者と生産組織の交流を促進し、地域の活性化と生産組織の強化につながった。		
課題（できなかったこと）	各組織の会員を増やすことで、組織強化が必要である。		
担当課評価	B	地場野菜等の生産拡大と地域内供給の促進及び生産組織の強化に寄与しており、今後も活動助成が必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	普及方法などは各団体へまかせているが、なかなか会員の拡大に繋がっていない。昨年度同様、企業等を退職したばかりの元気な世代等を積極的に取り組めるよう、指導・助言を行う。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする
具体的な施策	ア 地域を支える産業の競争力強化
	② 農林業の競争力強化
事業名	作付拡大対策事業
担当課名	農林課
関係課名	所属長名 下山透
事業の目的	復元農地への作付拡大を推進し、生産意欲の向上を図る。
事業の内容	復元農地への作付拡大を推進し、生産意欲の向上を図るため、荒廃農地復元に係る経費を就農者へ助成する事業。 補助額：1万円/a
事業の実績・取組状況	復元農地への作付拡大を行った就農者に対し、578千円の助成を行った。網上地区（5.32 a）、今里地区（52.5 a）において、荒廃農地の復元が図られた。合計57.82 a
成果（できたこと）	荒廃農地の復元が図られた。
課題（できなかったこと）	町内で広大な農地の確保が難しく、意欲ある担い手の確保が難しい。
担当課評価	B 荒廃農地復元に係る経費を就農者へ助成することで、荒廃農地の解消を促進し、農家所得、生産意欲の向上に繋がることから、今後も助成が必要である。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	意欲ある担い手の育成に取り組み、復元農地への作付拡大を図っていく。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	近代化施設等整備事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	販売用作物の施設化や土づくり対策等による向上、農家の増収を図る。		
事業の内容	販売用作物の施設化や土づくり対策等による向上、農家の増収を図ることを目的に、施設整備に対して助成をする事業。 補助率：1/2以内		
事業の実績・取組状況	施設整備を行った農家に対し、2,099千円の助成を行った。 ハウス新設：2棟、ハウスビニール張替え：11棟、防虫網：100m、トンネル支柱：100本、管理機：3台、堆肥：16,147袋		
成果（できたこと）	施設整備に対して助成することで、販売農家の生産意欲・技術向上を図り、販売農家の育成につながった。		
課題（できなかったこと）	施設整備に加え、意欲ある担い手の育成が必要。		
担当課評価	B	施設整備に対する助成が農家の増収に寄与することから、今後も助成を行い、販売用作物の施設化や土づくり対策等による品質向上が必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	今後も近代化施設等の整備費用の一部を助成することで、農家の増収を図るとともに、担い手の育成に取り組む。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	有害鳥獣駆除推進対策事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山 透
関係課名			
事業の目的	有害鳥獣（イノシシ、シカ）の被害防止を目的とする。		
事業の内容	有害鳥獣（イノシシ、シカ）被害防止を目的として、電気牧柵設置及びワイヤーメッシュ柵設置者に対して補助する事業。補助率：1/2以内、有害鳥獣駆除に係る狩猟登録経費及び免許取得経費に対して補助する事業。補助額：狩猟税及び狩猟登録手数料相当額		
事業の実績・取組状況	電気牧柵等設置者及び有害鳥獣駆除者に対し、7,922千円の助成を行った。電気牧柵3件、ワイヤーメッシュ柵69件の設置推進を図った。狩猟登録経費の補助を7人に、また、免許取得の補助を5人に行った。		
成果（できたこと）	設置目標72件に対して実績は72件であり目標を達成し、農作物被害の軽減に繋がった。また、有害鳥獣駆除者の育成に寄与した。		
課題（できなかったこと）	町内全域での捕獲体制がとれていない。		
担当課評価	B	捕獲事業と合わせて実施しており、農作物の被害軽減が図られていることから、今後必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	必要な集落に捕獲隊を設置できるよう取り組む。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	鳥獣被害防止総合対策事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	有害鳥獣による農作物被害の軽減を図る。		
事業の内容	有害鳥獣による農作物被害の軽減を図るため、有害鳥獣駆除者に対して捕獲報奨金を交付する事業。 【奨励報奨金】銃器で捕獲の場合イノシシ11,000円/頭、鹿10,000円/頭、捕獲器（わなを含む）で捕獲の場合、イノシシ10,000円/頭、鹿9,000円/頭、幼獣は、一律3,000円を減額		
事業の実績・取組状況	イノシシ捕獲1,257頭、シカ捕獲3,718頭、計4,975頭を捕獲した。		
成果（できたこと）	有害鳥獣駆除者に対して捕獲報奨金として、46,594千円を補助した。 捕獲目標1,500頭に対して、実績は4,975頭であり目標を達成し、農作物被害の軽減に繋がった。		
課題（できなかったこと）	町内全域での捕獲体制がとれていない。		
担当課評価	A	農作物の被害が軽減しており、引き続き事業を推進していく必要がある。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	必要な集落に捕獲隊を設置できるよう取り組む。		
委員評価	A	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	「カンコロの島」再生事業【新規】		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	カンコロの安定供給体制を強化を図る。		
事業の内容	カンコロ製造工場の整備により、カンコロの安定供給体制を強化し、特産品「カンコロ餅」を全国へ発信する事業。		
事業の実績・取組状況	新規事業であり、H27年度はJAとの協議のみ。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	供給体制を図ること自体難しい。		
担当課評価	—	農業振興には必要な事業であると思うが、推進するにはJAの協力が不可欠です。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	JAが事業主体となって工場整備を行っていくことを考えている。今後もJAなどの関係機関と連携して、協議を重ねる。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	家畜防疫対策事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	家畜の伝染性疾患の発生を防止することにより、畜産の振興を図る。		
事業の内容	家畜（牛）の予防注射に対して助成を行い、家畜伝染性疾患の予防に努める。		
事業の実績・取組状況	家畜の予防注射を行った8戸の農家に対して、241千円を助成した。 IBR（6混） 41頭 イバラキ病 11頭 異常産 65頭		
成果（できたこと）	家畜伝染性疾患の予防を図ることができた。		
課題（できなかったこと）	なし		
担当課評価	B	ワクチンの接種により、家畜伝染性の疾患を予防でき、目的を達成できている。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	畜産の振興を図る上で、家畜伝染性疾患の予防は重要事項であり、今後も引き続き、家畜の予防注射に対して助成を行う。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	優良雌牛導入事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名	農林課		
事業の目的	優良雌牛の導入を促進することにより、高価格の子牛生産を図る。		
事業の内容	長崎県家畜導入事業（農協等有導入事業）による優良雌牛の導入、また、優良雌牛の自家保留に対し助成することにより、経営の安定化を図る。		
事業の実績・取組状況	優良雌牛導入費用の一部 680千円を助成した。 ・農協等有導入事業 3頭 600千円（県補助制度） ・自家保留 2頭 80千円（町単独）		
成果（できたこと）	高価格の子牛の生産を図り、畜産農家の経営安定に寄与した。		
課題（できなかったこと）	なし		
担当課評価	B	自家保留・農協等有導入事業により、優良雌牛の導入がなされ、高価格の子牛の生産体制を構築できた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	農家の繁殖雌牛の能力を向上させ、資質が高い子牛の生産を推進する。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	子牛生産奨励事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名	農林課		
事業の目的	繁殖雌牛から産出される子牛に対して助成を行い、生産率の向上を図る。		
事業の内容	繁殖雌牛から産出される子牛に係る経費（5,000円/頭）に対し補助を行うことにより、生産率の向上及び経営の安定化を図る。		
事業の実績・取組状況	子牛 45頭分の補助を行った。 225千円		
成果（できたこと）	生産率の向上及び経営の安定化が図られている。		
課題（できなかったこと）	更なる生産率増を目指すには、畜産農家の体制強化が必要。		
担当課評価	B	生産率向上などに繋がっており、農家の生産意欲の高揚のため、また、生産率向上のために、生産を奨励する補助が今後必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	優良雌牛の導入促進などと一体的に、畜産振興に努める必要があり、今後も引き続き、繁殖雌牛から産出される子牛に係る経費に対して補助を行い、生産性の向上を図っていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	町有家畜導入事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名	農林課		
事業の目的	高能力繁殖雌牛導入にかかる農家の初期費用を軽減し、付加価値の高い子牛の増産を促進する。		
事業の内容	基金から繁殖雌牛を町が購入し、生産者に一定期間無償で貸し付けた後、譲渡する。 貸付期間 7年以内（育成牛 4～18か月齢） 6年以内（成牛 18か月齢～6歳） 譲渡価格 36万円（但し購入額が60万円を超えた場合は、その差額を加算）		
事業の実績・取組状況	1戸の農家に対して、町で購入した高能力繁殖雌牛2頭を貸し付けた。 高能力繁殖雌牛2頭購入費 1,442千円		
成果（できたこと）	高能力繁殖雌牛導入にかかる農家の初期費用の軽減を図った。		
課題（できなかったこと）	なし		
担当課評価	B	高能力繁殖雌牛導入にかかる農家の初期費用の軽減を図ることができ、付加価値の高い子牛の増産強化に繋がっており、今後も必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	引き続き、肉用牛資源の維持拡大により畜産経営の安定を図る。また、畜産業を目指す意欲ある人材の育成に努めていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	全国椿サミット（つばき里山まつり）開催事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	新上五島町のつばきを中心とする林業を体験させる「つばき里山まつり」を開催することによって、賑わい創造による地域間交流と林業振興による地域の活性化を図り、本町産業経済の発展に寄与するものとし、平成30年の全国椿サミットに向けてプレイベントとして行い全国椿サミットに向けて改善を図る。また、「全国つばきサミット」においては全国へ椿の島をアピールする。		
事業の内容	つばき里山まつり ステージイベント、講演、体験、椿関連商品販売、五島うどん提供など 全国つばきサミット 国42市町村が加盟する全国椿サミット 平成30年3月開催		
事業の実績・取組状況	つばき里山まつりの開催（つばき里山まつり実行委員会補助金 1,056千円） 【ステージ】椿の育成についての講話・太鼓演奏・キッズダンス・書道パフォーマンスなど 【アリーナ】林業経営相談・ネイルアート体験・各種団体による椿関連商品の販売・俳句や短歌、絵画、写真の展示など 【屋外】シイタケ種駒打ち体験など を実施		
成果（できたこと）	つばき里山まつりを開催し、にぎわいの創出と地域間交流、町民の林業に対する理解を深めることができた。		
課題（できなかったこと）	来場者の滞留場所（場内での休憩場所）を作っていなかった。また、来場者が体調を崩した場合の連絡体制を構築できていなかった。		
担当課評価	B	イベント自体は概ね成功と考えているが、細かい部分を見直す必要があるので、実行委員や参加者の意見を聞きながら改善に務める。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	参加者への意見聴取を行い、改善に努め、「全国つばきサミット」の成功に繋げていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	島の森再生事業【新規】		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	本町林業の直面する課題を解決し、継続的に林業を振興していくため、趣旨に賛同する法人等により協議会を設立する。 森林資源を活用することにより、つばき産業の向上、雇用の創出、森林再生による水源涵養機能の増進等に繋げる。		
事業の内容	整備山林の確保、高性能林業機械リース、森林素材の販売方法・販売先確保、新規参入者の技術向上など、林業を振興していく上での課題を、協議を重ねながら解決していく。 また、人工林の間伐と材の利用、チップ工場の誘致を目指す。		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	協議会の設立や作業員への機械操作研修会の開催などを行い、林業を産業として確立させていくために必要な体制を作っていくとともに、新規事業者が林業に参入する際の障壁となっている高性能林業機械のリースを、町が機械を所有し安価で貸し出すことで解決していく。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	椿による五島列島活性化特区事業〈主：まち〉		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	椿油の増産のみならず椿の木全てを有効に活用して地域が一体となり「椿関連産業」の活性化に取り組み、離島の活性化の起爆剤として地域に根ざした地域密着型の6次産業化を目指すことを目的としている。また、その椿実から採れる油の製品の生産増大・販路拡大を通じて、就業の機会の創出と地域活性化を図る。		
事業の内容	自生椿林整備、椿加工場建設、椿油・関連商品開発促進		
事業の実績・取組状況	自生椿林内作業道整備 2.8km 自生椿林改良 34.24ha 沿道つばき林整備 1.1km 新上五島町つばき木工房 保管用倉庫、レーザー加工機整備 木工講習会開催 4回 木工技術振興会会員の先進地視察研修 つばき苗支給 2,777本（成人式記念、荒廃農地復旧など） などを実施		
成果（できたこと）	つばき林の除伐・断幹により、森林が持つ機能回復を図るとともに優良つばき林育成に繋がった。 木工技術振興会では保管用倉庫、レーザー加工機を導入し施設の充実を図るとともに、県外から講師を招聘して講習会を開催し、会員の木工技術のレベルアップが図られた。 つばき苗支給により、「日本一の椿の島づくり」を町内外にアピールできた。		
課題（できなかったこと）	耕作放棄地への苗木植栽が少なかった。		
担当課評価	C	耕作放棄地の解消が進んでいない。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	耕作放棄地への植樹を促進するため、高齢者でも椿実を収穫できるような整備を検討する必要がある。		
委員評価	C	2次評価のとおり（まち分野で評価）	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
事業名	農産物出荷奨励事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	共同販売を目的とする主要作物の出荷に要する経費の一部を助成することにより、出荷農家の生産意欲の向上を図る。		
事業の内容	共同販売を目的とする主要作物の出荷に要する経費の一部に対し助成する事業。 ■主要作物 補助額 いんげん（20円/kg）、青果用つわ（150円/kg）、湯がきカンコロ（50円/kg）		
事業の実績・取組状況	出荷農家に対し、535千円を助成した。 いんげん：525.6kg（10,512円）、青果用つわ：3,130.2kg（469,530円）、湯がきカンコロ：1,100kg（55,000円）		
成果（できたこと）	計画通り申請があった団体へ補助金を交付した。 農家の生産意欲の向上と増収に繋がった。昨年度と比べ、いんげんと湯がきカンコロ出荷量の増に繋がった。		
課題（できなかったこと）	農家の担い手の育成が必要。		
担当課評価	B	青果用つわは、H28年1月の大雪の影響により、出荷量減になったものの、いんげんと湯がきカンコロ出荷量は増となり、農家の生産意欲の向上と増収が図られており、今後も継続する必要がある。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	出荷農家の増加を図るため、他の農業振興施策と一体的に農家の担い手の育成を進めていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
	2	経営・流通・販売対策	
事業名	流通対策事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	家畜市場等へ出荷する流通経費に対して助成を行うことにより、畜産農家の負担の軽減と購買者の定着等を図る。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜市場等出荷牛及び死亡牛の輸送に要する運賃及び曳人の旅費の助成（助成額：定額） ・家畜市場で購買された町内産子牛の島外輸送経費の助成（助成額：1,500円/頭以内） 		
事業の実績・取組状況	家畜市場等へ出荷する下記の流通経費に対して、194千円の補助を行った。 ・子牛 31頭 ・成牛 6頭 ・キャトル 12頭 ・死亡牛 1頭 ・家畜農家 12人		
成果（できたこと）	島外への出荷経費負担の軽減が図られ、畜産農家の経営安定に繋がった。		
課題（できなかったこと）	更なる出荷頭数増を目指すには、畜産農家の体制強化が必要。		
担当課評価	B	島内に家畜市場がないため、本助成により畜産農家の出荷経費の負担軽減が図られており、経営安定及び畜産振興には、今後も必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	今後も引き続き、家畜の島外輸送経費の助成を行うとともに、資質が高い牛の生産のため、防疫対策や優良雌牛導入などの事業と一体的に畜産業の振興を図っていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
	2	経営・流通・販売対策	
事業名	子牛価格生産安定特別対策事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名	農林課		
事業の目的	子牛価格の下落による経営の急激な悪化の緩和、生産意欲の向上を図る。		
事業の内容	子牛販売価格が雌34万円、去勢42万円を下回った場合、その差額を5万円を限度として助成する。但し、国の補給金が発動された場合はその額を控除する。 ※ 子牛の発育が良好で1日当り増体量が雌0.9kg、去勢1.0kg以上であること		
事業の実績・取組状況	事業内容に該当する子牛取引価格の下落がなかったため、実績はなし。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	B	現状が高値で取引されているので、支援に該当がない。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	今後も引き続き、子牛取引価格の下落時の助成体制を整え、万が一の自体から畜産農家の経営を守る。また、取引価格をより高価格にするため、資質が高い牛の生産に取り組んでいく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	②	農林業の競争力強化	
	2	経営・流通・販売対策	
事業名	共進会出品助成事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名	農林課		
事業の目的	共進会等出品への経費を助成することにより、出品牛の促進を図る。		
事業の内容	共進会等出品への運賃及び出品者の旅費の助成（補助額：定額）		
事業の実績・取組状況	出品牛がいなかったため、実績なし。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	畜産農家の更なる生産技術の向上が必要。		
担当課評価	B	平成27年度の事業実績はなく、成果もあがらなかったが、畜産農家相互の意識向上、品質向上への意欲増進を図るうえで、今後も必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	防疫対策や優良雌牛導入、家畜市場等出荷などへの支援を行うことにより、畜産農家の経営安定を図り、品質の高い出品牛を育てる環境づくりを支援する。また、県五島振興局やJA五島の協力をいただき、畜産指導を行い、生産技術の向上を図っていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする
具体的な施策	ア 地域を支える産業の競争力強化
	② 農林業の競争力強化
	2 経営・流通・販売対策
事業名	家畜共済加入奨励事業
担当課名	農林課
関係課名	農林課
所属長名	下山 透
事業の目的	家畜共済掛金の一部を助成することにより、畜産農家の共済制度への加入促進と負担軽減を図る。
事業の内容	共済掛金（家畜共済掛金の国庫補助残）の1/3以内を助成。
事業の実績・取組状況	11戸の家畜農家の内10戸の畜産農家に対し、家畜共済加入費用の一部として、187千円を助成した。
成果（できたこと）	共済制度への加入促進及び畜産農家の負担軽減が図られ、家畜の死亡などのもしもの時の備えができた。
課題（できなかったこと）	なし
担当課評価	B 平成27年度においては、補助対象外の1戸を含め11戸の加入促進が図られた。畜産農家の経営の安定と強化のため、加入費の助成は、今後も必要である。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	家畜の死亡などにより新たな家畜を導入しなければならなくなった際の導入経費等の負担を軽減できる共済制度であり、今後も加入促進に努める。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。